
中期経営計画

(2026～2028年度)

那覇空港ビルディング株式会社

2026年3月



目 次

- 1. 沖縄の将来像と空港政策の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・p.3
- 2. 第2次中期経営計画の取組と成果・・・・・・・・・・・・・・・・p.4
- 3－1. 第3次中期経営計画－概要・・・・・・・・・・・・・・・・p.6
- 3－2. 第3次中期経営計画－戦略方針別 具体的な取組・・・p.7
- 3－3. 第3次中期経営計画－数値目標・・・・・・・・・・・・・・・・p.8
- 3－4. 第3次中期経営計画－主な投資計画・・・・・・・・・・・・p.9

1. 沖縄の将来像と空港政策の方向性

当社を取り巻く経営環境

世界経済

- ・米国による経済政策の不確実性
- ・世界経済の堅調な推移

日本経済

- ・人手不足による省力化投資の加速
- ・所得から支出への前向きな循環メカニズムの強まり

沖縄経済

- ・過去最高の年間入域観光客数
- ・観光需要の増加、個人消費の拡大

観光業界

- ・過去最高の年間訪日外客数
- ・「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」etc.

国・県が目指す沖縄の将来像

- 我が国及びアジア・太平洋地域の発展に寄与する21世紀の「万国津梁」の形成
- 世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革
- 世界最高水準を見据えた拠点空港等の整備

国の空港政策の動向

- 我が国の国際競争力の強化に資する強靱な航空ネットワークの実現
- 航空の安全・安心と持続可能性の確保
- 航空DX化を通じた利便性の高い航空サービスの実現

GW2050 PROJECTS が目指す那覇空港の将来像

- 那覇空港を「価値創造重要拠点」と位置付け
- 世界最高水準の国際リゾート・ビジネス空港

2. 第2次中期経営計画の取組と成果

【数値目標（最終年度※令和7年度）】

売上高

171億円

(対目標値)

(+118.6%)

経常利益

81億円

(+189.4%)

当期純利益

57億円

(+190.1%)

国内線
年間乗降客数

1,932万人

(対目標値)

(+107.3%)

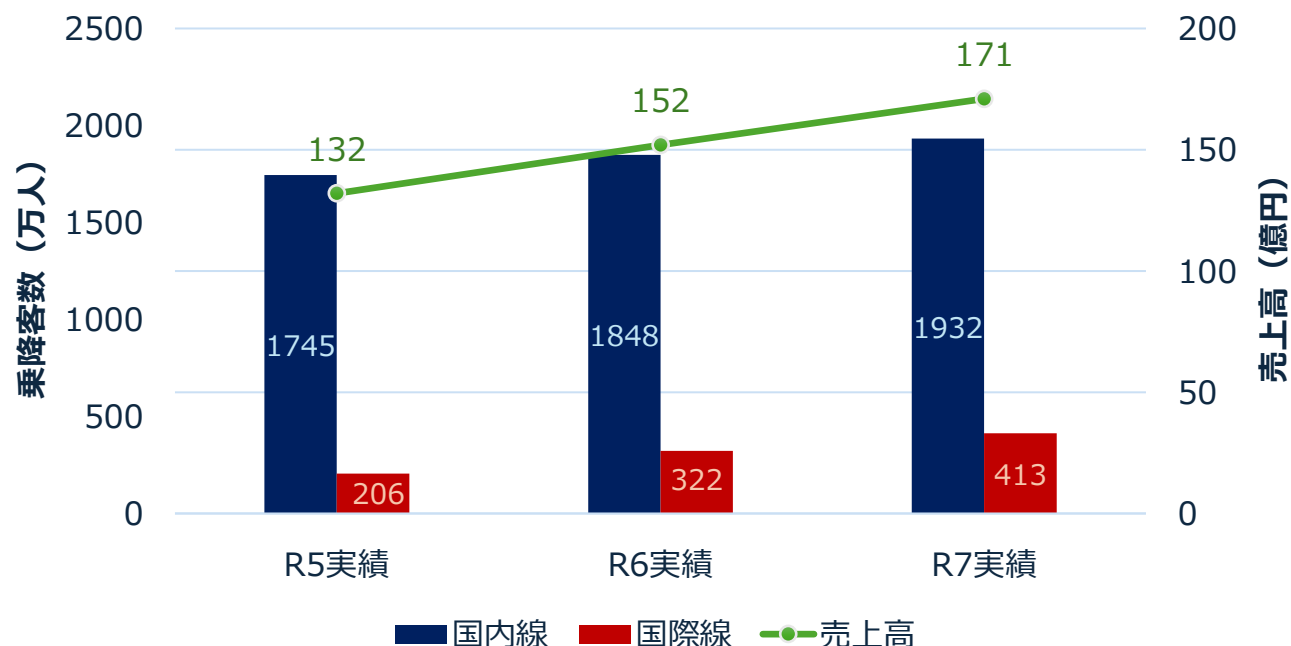
国際線
年間乗降客数

413万人

(+103.5%)

損益・乗降客数ともに
～目標値を達成～

年間乗降客数と売上高の推移(R5～R7年度)



2. 第2次中期経営計画の取組と成果

安全 安心

- ★国内線特定天井改修工事（耐震工事） ・国内線排煙口設備改修工事
- ・年間計画に基づいた災害・保安対策の実施 ・内装監理室の体制整備
- ・コンプラ・リスク委員会定例開催 ・内部監査の経常的实施と取締役会報告
- ・UTM(統合脅威管理)の更新 ・ネットワークの無線化
- ・情報セキュリティの効果測定、メール訓練、社内講座



利便性 快適性 機能性

- ・国際線保安検査場改修工事、スマートレーン導入 ・国内線カードラウンジ移転
- ・カプセルホテル整備 ・ビジネスジェットラウンジ運用 ・南側新立体駐車場建設着工
- ★駐車場混雑状況や二次交通の情報発信 ・一般駐車場の適正料金見直し
- ・役員館内巡視と美化クリンネスチーム館内清掃巡回、空港内植栽活動
- ・SKYTRAX監査の受検（4スター認定）



パートナー 連携

- ・那覇空港機能性向上等連絡会の定期開催 ★県/OCVBと連携した国際線路線誘致活動
- ・航空会社との定期的な意見交換会 ・委託業者との定期的な意見交換会
- ・グループ会社業務報告会とネットワーク会議（社長会）の定期的な開催
- ・継続的な首里城復興支援募金活動 ・首里城復興応援広場における企画展示
- ・「空の日」イベント等を通じた空港の活性化



収益力 財務力 人材育成

- ★コロナ禍で生じた空き区画へのテナント誘致 ・イベントスペースの販売強化
- ・バックオフィス業務のシステム導入 ・AI案内サービスの導入 ・有料待合室等予約システムの導入
- ・債権管理に関する事務要領の策定 ・社員採用計画の見直し
- ・沖縄県及び日本空港ビルデング社との人事交流 ・健康経営優良法人の認定取得
- ・衛生委員会の設置と健康保持増進対策の実施



3-1. 第3次中期経営計画－概要

経営基本方針：「アジア有数の拠点空港への定着」

計画期間：令和8年度～令和10年度（3年間）

（戦略方針1）安全と安心の徹底追求

- ・災害に強い空港施設の整備
- ・実効性の高い危機管理体制の構築
- ・潜在リスクへの対処と老朽化対策
- ・セキュリティ・セーフティの向上
- ・グループ全体のリスク管理と内部統制の強化
- ・情報セキュリティ対策の強化

（戦略方針2）利便性・快適性・機能性の充実強化

- ・航空需要の更なる増加に備えた空港機能の強化
- ・旅客手続きの円滑化に向けた設備機能の強化
- ・公共交通機関の利用促進等による駐車場及び周辺道路の混雑解消
- ・世界から選ばれる魅力の高い商業エリアの形成
- ・誰もが楽しめる、やさしい空港づくり
- ・世界水準の清潔さと花と緑あふれる空港づくり
- ・国際的にも評価される品質の高い空港運営

（戦略方針3）空港を支えるパートナーとの連携強化

- ・「チーム那覇エアポート」の形成に向けた協働体制の構築
- ・国と沖縄県等との連携
- ・グループ経営の強化
- ・他空港との連携
- ・社会的課題への取組と地域社会への貢献

（戦略方針4）収益力と財務力の強化と人財育成

- ・テナント・附帯事業の活性化
- ・デジタル化の推進による業務効率化
- ・債権管理体制の構築と適正な料金設定
- ・強靱な組織の構築と人財育成
- ・健康で働き甲斐のある職場づくり

3-2. 第3次中期経営計画－戦略方針別 具体的な取組

安全 安心

- ・特高電気設備の高層階移設工事（浸水対策） ・国内線水受水槽耐震工事
- ★専門家と連携した危機管理体制の構築（BCP※実効性の確保）※BCP＝「事業継続計画」
- ・中期修繕計画の策定（老朽化対策）・国内線空調設備更新工事の推進
- ・警備業務のDX化 ・保安検査の実施主体移行に係る体制整備
- ・グループ全体のカスハラ対策 ・グループ会社の内部監査の実施 ・情報セキュリティ対策強化



利便性 快適性 機能性

- ・国内線トイレ増設・更新計画の検討（狭隘化・老朽化対策）
- ・FAST TRAVEL推進に向けた研究（SBD※導入、スマートレーン増設他）
- ★南側新立体駐車場建設工事の推進 ※SBD＝「自動手荷物預入機」
- ・国内線オープン売店のリニューアル計画の推進 ・館内案内サインの更新
- ・植栽計画の推進と沖縄県との連携 ・SKYTRAX空港監査指摘事項の改善



パートナー 連携

- ・航空会社、テナント、委託業者との定期的な意見交換
- ・空港従業員の満足度(ES)向上に資する取組の実施
- ・沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューローと連携した国際線航空会社の誘致活動
- ・グループ経営基盤強化と組織活性化 ・羽田空港、宮古空港、石垣空港との連携
- ★継続的な地域貢献活動の推進と会社設立35周年記念事業の実施



収益力 財務力 人財育成

- ★未開拓広告媒体の開発（PBB※、固定橋等） ※PBB＝「旅客搭乗橋」
- ・顧客サービスのデジタル化の推進 ・AI活用と社内利用規程の整備
- ・適正な工事等発注体制の構築 ・長期放置車両の処分
- ・社員採用計画の見直しと採用対象の拡大
- ・組織内のコミュニケーションの活性化 ・高年齢者雇用制度の見直し



3-3. 第3次中期経営計画－数値目標

【数値目標（最終年度※令和10年度）】

売上高

179億円

経常利益

61億円

当期純利益

43億円

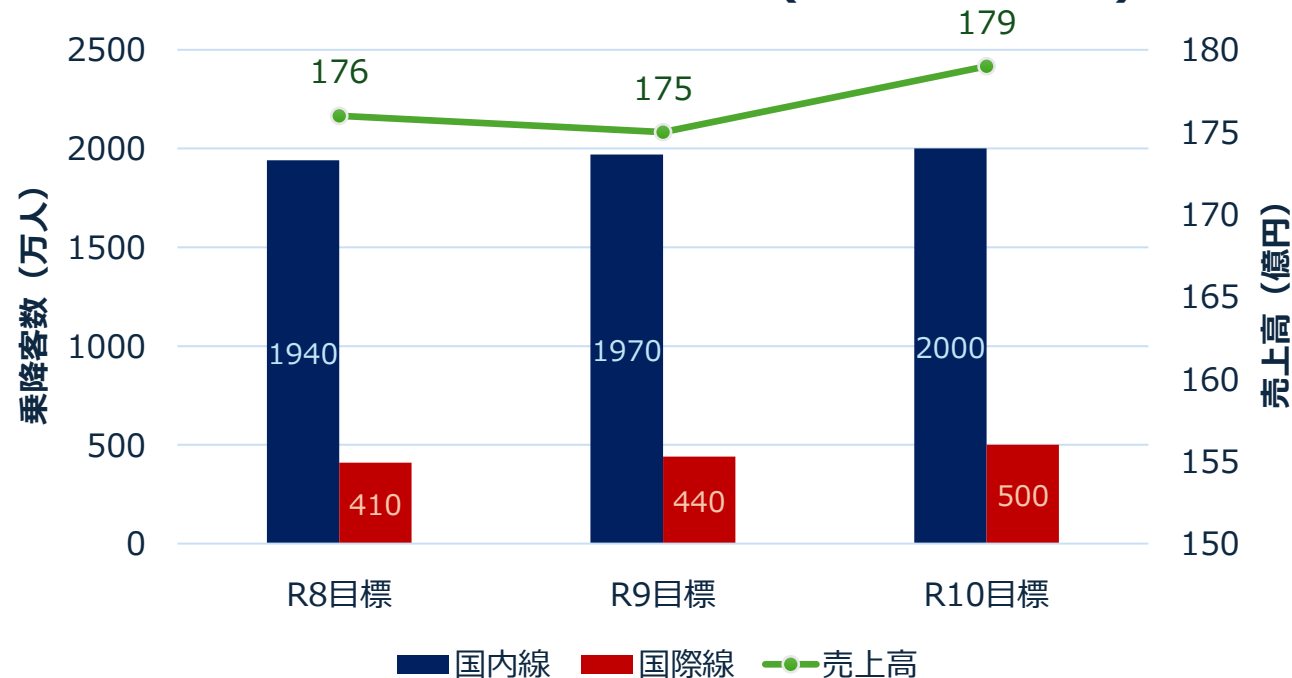
国内線
年間乗降客数

2,000万人

国際線
年間乗降客数

500万人

年間乗降客数と売上高の推移(R8～R10年度)



3-4. 第3次中期経営計画－主な投資計画

災害対策



地下階に位置する主要電気設備の
高層階移設（浸水対策）



災害時の安定供給に向けた
上水受水槽の耐震工事

サービス向上



経年劣化したタイルカーペットの更新



分かりやすい案内サインの整備

機能強化

空調システムの安定・効率化
に向けた空調機の更新



約1,200台規模の
新立体駐車場の整備



狭隘化する国内線の増築検討

投資総額

360億円

※概算

